

平成30年度セクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について（概要）



令和元年5月28日

千葉県教育庁教育振興部教職員課

電話 043-223-4036

平成30年度に実施した、公立学校の児童・生徒及び職員を対象としたセクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果がまとまりましたので、その概要を報告します。

この調査は、各学校が、学校におけるセクハラ及び体罰に関する実態を把握し、効果的に防止策を講じ、よりよい学校環境をつくるために実施しているものです。

1 調査方法等

(1) 調査対象

千葉市立学校及び市立高等学校を除くすべての公立学校に在籍する児童・生徒（対象人数は、489, 473人）及び職員（対象人数は、県立学校においては、12, 380人）

(2) 調査対象期間

平成30年4月1日（日）から回答日まで

(3) 実施期間

平成30年12月3日（月）から平成31年1月31日（木）まで

(4) 実施方法

ア 児童・生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

イ 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

2 調査結果の概要

(1) セクハラ実態調査の結果について

ア 児童・生徒

セクハラと感じて不快であったと回答した児童・生徒の割合は、平成29年度と比較してほぼ変化はなく、100人当たり0.1人であった。ただし、実数で見ると、平成29年度の308人から424人に116人増加している。

- ・高等学校生徒0.3人（0.2人）
- ・特別支援学校児童・生徒0.3人（0.3人）
- ・小学校児童 0.02人（0.02人）
- ・中学校生徒 0.1人（0.1人）

※数字は児童・生徒100人当たりの人数、（ ）内は平成29年度

主な回答は、「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」、「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」、「必要以上に身体に触られ、不快であった。」というものであり、ここ数年変わりが無い。

また、セクハラ以外のハラスメントを受けて不快であると感じた児童・生徒の割合は、100人当たり0.2人（実数では、993人）あり、回答の多くは、「性格を否定されるようなものの言い方をされた。」、「先生が大声で怒鳴ったり、乱暴な言葉を発する。」等といった教員の発言や対応等によるものであった。（平成29年度は実数で763人）

調査結果を踏まえ児童・生徒本人と面談をする等状況を確認したところ、深刻な

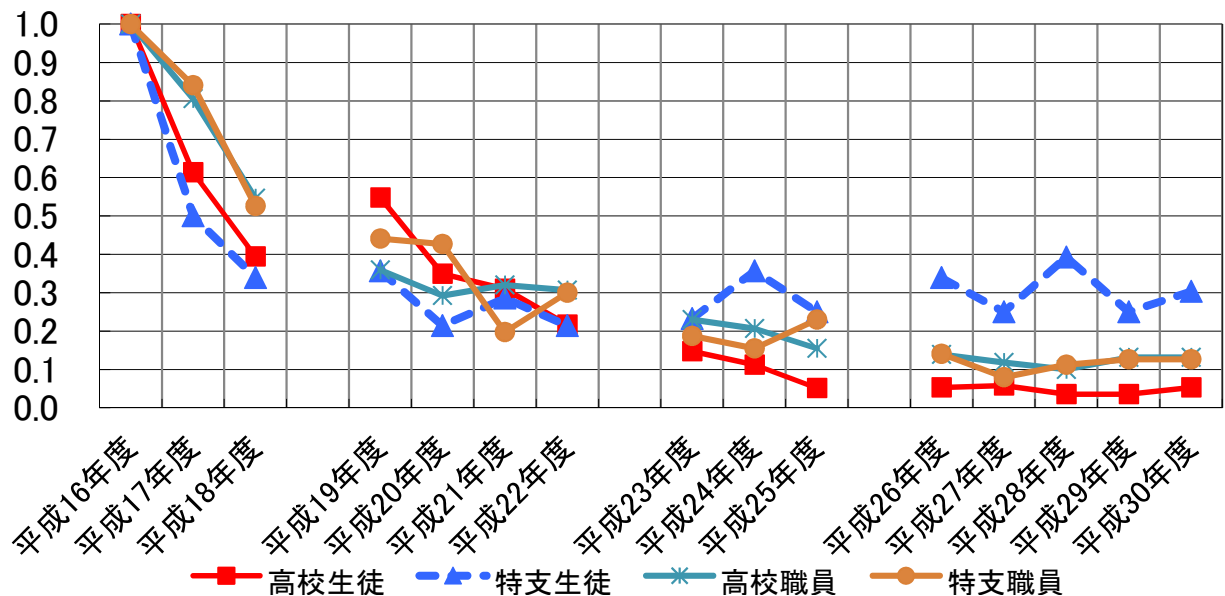
問題はなかった。

なお、県立高等学校、特別支援学校の児童・生徒のセクハラ相談員（悩みごと相談員）の周知率（相談員を知っている率）が、平成29年度の66.8%から68.4%へ上昇した。引き続き、周知率の向上に取り組んでいく。

イ 職員

県立高等学校、特別支援学校では、94人の職員がセクハラであると感じたと回答した。平成29年度の98人と比較すると4人減少している。

セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度を1とした場合）



(2) 体罰実態調査の結果について

アンケート調査の結果、1件が報告された。調査を始めた平成24年度の54件と比較すると、大きく減少している。

- ・高等学校生徒 1件（0件）
- ・特別支援学校児童生徒 0件（0件）
- ・小学校児童 0件（0件）
- ・中学校生徒 0件（0件）

※（ ）内は平成29年度

3 今後の対策

セクハラ及び体罰の根絶に向けて、引き続き、セクハラ防止に向けたパンフレットやリーフレットを活用し、教職員及び児童・生徒への啓発を図るとともに、教職員に対し、参加型の研修を行うこと等により、教職員一人一人の倫理観の高揚を図る。また、児童・生徒の人権意識の高揚も図っていく。

問い合わせ

教育振興部教職員課管理室

電話 043-223-4036

平成30年度セクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について【データ編】

調査方法等について

1 調査対象

すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童・生徒及び職員（千葉市立学校及び市立高等学校を除く。）を対象とし、児童・生徒においては、「学校生活アンケート」として実施。

※ただし、産休、育児休業、休職、療養休暇中の職員は除く。特別支援学校の生徒については、家庭に持ち帰る等の対応による調査を行った。

※体罰調査は、職員には実施していない。

※義務教育学校の人数は、当該小中学校に含めて集計を行った。

※調査対象期間は、平成30年4月1日（日）から回答日までである。

＜回答者数＞公立学校児童生徒数合計：463,170名

高等学校生徒 91,541名 特別支援学校生徒 5,249名

小学校児童 250,113名 中学校生徒 116,267名

県立学校職員数合計：11,499名

高等学校職員 7,641名 特別支援学校職員 3,822名

中学校職員 36名

※市町村立の小学校・中学校・特別支援学校の回答職員数は未集計。

＜調査学校数＞学校数合計：1,163校

市町村立小学校 678校 市町村立中学校 320校

市町村立義務教育学校 2校 市町村立特別支援学校 2校

県立中学校 2校 県立高等学校 123校

県立特別支援学校 36校

2 実施期間

平成30年12月3日（月）から平成31年1月31日（木）まで

3 実施方法

(1) 児童・生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

(2) 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

4 男女別在籍者数及び回答者数

(1) 児童・生徒

生徒		県立高等学校			特別支援学校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
平成30年度	男子	47,571	45,316	95.3%	4,032	3,556	88.2%
	女子	48,109	46,225	96.1%	1,919	1,693	88.2%
	合計	95,680	91,541	95.7%	5,951	5,249	88.2%
平成29年度	男子	47,646	45,765	96.1%	3,943	3,556	90.2%
	女子	47,822	46,102	96.4%	1,921	1,708	88.9%
	合計	95,468	91,867	96.2%	5,864	5,264	89.8%

児童・生徒		小 学 校			中 学 校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
平成 30 年度	男子	135,163	127,051	94.0%	63,894	59,556	93.2%
	女子	128,427	123,062	95.8%	60,358	56,711	94.0%
	合計	263,590	250,113	94.9%	124,252	116,267	93.6%
平成 29 年度	男子	134,677	127,453	94.6%	68,003	64,042	94.2%
	女子	128,289	123,778	96.5%	64,230	60,757	94.6%
	合計	262,966	251,231	95.5%	132,233	124,799	94.4%

(2) 教職員

職 員		県 立 高 等 学 校			県 立 特 別 支 援 学 校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
平成 30 年度	男性	5,395	5,170	95.8%	1,554	1,471	94.7%
	女性	2,917	2,471	84.7%	2,476	2,351	95.0%
	合計	8,312	7,641	91.9%	4,030	3,822	94.8%
平成 29 年度	男性	5,497	5,265	95.8%	1,528	1,452	95.0%
	女性	2,596	2,470	95.1%	2,502	2,335	93.3%
	合計	8,093	7,735	95.6%	4,030	3,787	94.0%
職 員		県 立 中 学 校					
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%			
平成 30 年度	男性	26	26	100%			
	女性	12	10	83.3%			
	合計	38	36	94.7%			
平成 29 年度	男性	22	22	100%			
	女性	12	12	100%			
	合計	34	34	100%			

※小学校・中学校は、それぞれの市町村で集計している。

セクハラ実態調査の集計結果について

1 児童・生徒編

(1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

年度	性別	平成30年度			平成29年度		
		回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%
高等学校 (県立)	男子	45,316	64	0.1%	45,765	29	0.1%
	女子	46,225	166	0.4%	46,102	124	0.3%
	合計	91,541	230	0.3%	91,867	153	0.2%
特別 支援学校 (県立、市立)	男子	3,556	9	0.3%	3,556	7	0.2%
	女子	1,693	8	0.5%	1,708	7	0.4%
	合計	5,249	17	0.3%	5,264	14	0.3%
中学校 (県立、市町村立)	男子	59,556	36	0.1%	64,042	42	0.1%
	女子	56,711	85	0.1%	60,757	43	0.1%
	合計	116,267	121	0.1%	124,799	85	0.1%

小学校 (市町村立)	男子	127,051	17	0.01%	127,453	18	0.01%
	女子	123,062	39	0.03%	123,778	38	0.03%
	合計	250,113	56	0.02%	251,231	56	0.02%
合計		463,170	424	0.1%	473,161	308	0.1%

※セクハラと感じて不快だったと回答した児童・生徒の人数が、全体として増加した。

※調査結果を踏まえ各学校で追跡調査を行ったところ、深刻な問題はなかった。

【全体】100人当たり0.1人(0.1人) ※小数点第2位を四捨五入 ()内は平成29年度

(2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

①高等学校(回答人数230) ※セクハラと感じ不快だったと回答した生徒の人数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	21	37	58
・必要以上に身体を触られ、不快であった。	10	37	47
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	6	31	37
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	7	9	16
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	0	2	2
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・その他	10	53	63

②特別支援学校(回答人数17) ※セクハラと感じ不快だったと回答した児童・生徒の人数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	3	3	6
・必要以上に身体を触られ、不快であった。	1	2	3
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	1	2	3
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	0	0	0
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・その他	8	6	14

③中学校(回答人数121) ※セクハラと感じ不快だったと回答した生徒の人数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
・性的な話・冗談を言われ、不快であった。	12	43	55
・必要以上に身体に触れられ、不快であった。	11	37	48
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	11	3	14
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	6	8	14
・性的な内容の電話・手紙・電子メールをもらい、不快であった。	0	0	0
・その他	1	17	18

④小学校(回答人数56) ※セクハラと感じ不快だったと回答した児童の人数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
・必要以上に身体に触れられ、不快であった。	6	13	19
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	3	4	7
・性的な話・冗談を言われ、不快であった。	4	1	5
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	0	0	0
・性的な内容の電話・手紙・電子メールをもらい、不快であった。	0	0	0
・その他	4	23	27

(3) セクハラと感じ不快だったと回答した件数が多かった項目の推移

セクハラと感じ不快であったと回答した主な項目は、前年度と同じ傾向であった。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ① 県立高等学校生徒 | * () 内は、平成29年度。 |
| ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 | 0.06% (0.05%) |
| ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 | 0.05% (0.02%) |
| ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 | 0.04% (0.02%) |
| ② 特別支援学校児童・生徒 | |
| ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 | 0.11% (0.02%) |
| ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 | 0.06% (0.09%) |
| ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 | 0.06% (0.00%) |
| ③ 中学校生徒 | |
| ・「性的な話・冗談を言われ、不快であった。」 | 0.05% (0.01%) |
| ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 | 0.04% (0.01%) |
| ・「男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。」 | 0.01% (0.01%) |
| ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 | 0.01% (0.02%) |
| ③ 小学校児童 | |
| ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 | 0.01% (0.01%) |
| ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 | 0.00% (0.01%) |
| ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 | 0.00% (0.01%) |

※生徒の回答について内容を調査したところ、授業中の職員の冗談や教材の説明の中での性的な言動や、部活動及び服装頭髪指導等の生徒指導の場面における教職員の対応を不快と感じたものが多かった。

(4) セクハラととらえられた具体的な事柄（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・整容指導で後頭部から髪の毛を持って、耳にかけて、髪を切つてと言ひ、若者の見た目は短髪でいいだろうと決めつけてくる。
- ・服装検査時に靴下検査で足を見られて不快。体育の更衣時になかなか教室から出て行かない。
- ・頭髪指導時に、顔の距離が近くて、あまり気持ちが良くなかった。
- ・ネックレスをつけていないのに、いきなりえり首を下に強く下げられ、つけていないにもかかわらず謝罪もなかった。
- ・寒いからスカートの下にジャージを穿いていたら先生に脱げと言われたので脱ごうと思って先生に「見ないで」と言ったら否定してきて不快だった。
- ・授業の時、性に関する先生の言葉に驚いた。
- ・授業内で、女性の結婚は若いうちにすべきという主旨の話をされ不快だった。
- ・そんなに親しくない先生に体育の時間に肩をもまれて不快だった
- ・体育の授業後に教室内で女子が着替えをしている途中にも関わらず、次の授業担当の男の先生が教室に入ってくるのが不快だった。
- ・授業において恋愛や性に関する話題がなされ不快であった。
- ・授業で性に関することについて発表を求められ不快であった。
- ・教員が他の生徒に「かわいい子にはやさしい」と言ってプリントを渡していたのが不快だった。
- ・「女子はこの授業大事だぞ。女子は、ほぼほぼ事務職なんだから。」と言われた。
- ・水泳を見学する理由が生理であることを言わせようとしつこく聞いてきた。
- ・下校時に、男性職員から手招きされ、会話の中で頭をなでられた。
- ・女子トイレの清掃監督の男性教諭が制止しても入室してくる。
- ・自分のことではないが、女子部員に「太った？」と先生が言い、不快な思いをさせた。
- ・シングルマザーでもよいから子供を産めと言われ、頭にきた。
- ・Tシャツのサイズを皆の前で読み上げられて不快になった。
- ・男の先生にうなじを必要以上にさわられた。

2 教職員編

(1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

職 員		平成30年度			平成29年度		
年度	性別	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %
県立 高等学校	男性	5,170	14	0.3%	5,265	13	0.2%
	女性	2,471	53	2.1%	2,470	54	2.2%
	合計	7,641	67	0.9%	7,735	67	0.9%
県立 特別 支援 学校	男性	1,471	3	0.2%	1,452	5	0.3%
	女性	2,351	24	1.0%	2,335	26	1.1%
	合計	3,822	27	0.7%	3,787	31	0.8%
県立 中 学 校	男性	26	0	0%	22	0	0%
	女性	10	0	0%	12	0	0%
	合計	36	0	0%	34	0	0%
合計		11,499	94	0.8%	11,556	98	0.8%

※セクハラと感じて不快だったと回答した職員の人数は、減少した。

※調査結果を踏まえ各学校で追跡調査を行ったところ、深刻な問題はなかった。

【全体】100人当たり0.8人(0.8人) ※小数点第2位を四捨五入 ()内は平成29年度

(2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

①県立高等学校(回答人数 67) *教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した職員の人数(複数回答)

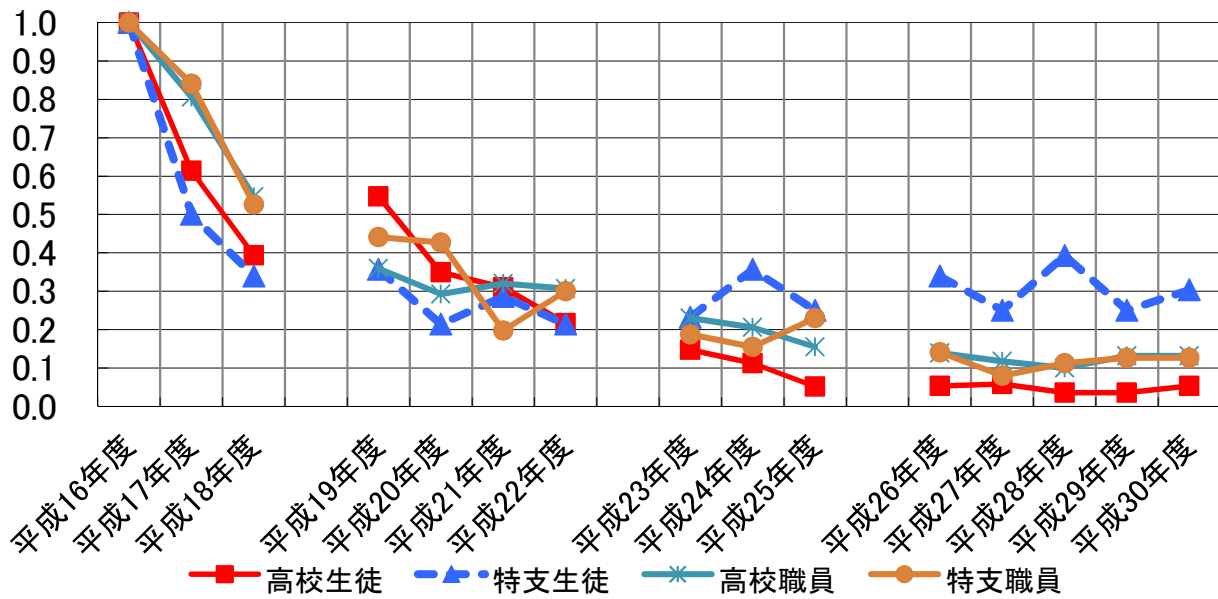
項 目	男性	女性	合計
・容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	4	21	25
・性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	3	7	10
・必要もないのに身体に触られ、不快であった。	1	3	4
・性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	1	2	3
・執ように交際を迫られ、不快であった。	0	1	1
・裸や水着のポスターやパソコンの画面を見せられ、不快であった。	0	0	0
・執ように携帯電話の番号やメールアドレスを聞かれ、不快であった。	0	0	0
・性的なうわさを流され、不快であった。	0	0	0
・お酌、カラオケのデュエット、ダンス等を強要され、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・上記のことをされ、拒否すると人事や仕事上で不利になると言われた。	0	0	0
・その他	6	20	26

②特別支援学校（回答人数27）＊教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した職員の人数（複数回答）

項目	男性	女性	合計
・容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	1	9	10
・必要もないのに身体に触られ、不快であった。	1	6	7
・性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	0	3	3
・性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	0	1	1
・執ように交際を迫られ、不快であった。	0	1	1
・性的なうわさを流され、不快であった。	0	0	0
・お酌、カラオケのデュエット、ダンス等を強要され、不快であった。	0	0	0
・裸や水着のポスターやパソコンの画面を見せられ、不快であった。	0	0	0
・執ように携帯電話の番号やメールアドレスを聞かれ、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・上記のことをされ、拒否すると人事や仕事上で不利になると言われた。	0	0	0
・その他	1	7	8

＊職員の回答について内容を調査したところ、生徒からの言動、性別による役割分担を不快と感じたとするものがあった。

3 セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度を1とした場合）



4 セクハラ相談員の周知について

セクハラ相談員を知っていると回答した児童・生徒数と周知率

校種 年度	県立高等学校		県立特別支援学校	
	人数	周知率	人数	周知率
平成30年度	64,059名	70.0%	1,883名	38.5%
平成29年度	62,523名	68.1%	1,937名	39.4%
平成28年度	60,381名	65.1%	1,588名	33.6%
平成27年度	59,459名	64.2%	1,802名	38.1%

●セクハラ相談員の周知率について

- ・高等学校と特別支援学校を合わせた全体のセクハラ相談員の周知率は、平成29年度の66.8%から68.4%となった。高等学校では、周知率が1.9ポイント増加したが、特別支援学校では0.9ポイント減少した。今後も集会等でセクハラ相談員の紹介や平成27年度に配布した「わいせつ・セクハラ防止リーフレット～不祥事根絶に向けて～」を活用する、担任が周知する等して、引き続きセクハラ相談員の周知率向上に努め、生徒が相談しやすい環境を作ることが重要である。
- ・なお、市町村立小学校は69.8%、市町村立中学校は65.4%であった。

5 記名の状況について

※平成18年度調査から アンケートについては、原則記名としている。

生徒	県立高等学校		県立特別支援学校	
	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した生徒の割合	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した児童・生徒の割合
平成30年度	94.8%	50.0%	92.6%	76.5%
平成29年度	96.1%	53.6%	92.5%	64.3%
平成28年度	94.3%	43.9%	92.3%	68.2%
平成27年度	94.7%	41.6%	93.6%	64.3%

記名した効果（複数回答）* 回答件数 130件

- | | | |
|-------------------------|-----------|--------------|
| | | () 内は平成29年度 |
| ・真面目に記入するようになり信頼性が向上した。 | 61件 34.9% | (66件 37.8%) |
| ・迅速で的確な対応が可能となった。 | 37件 21.1% | (55件 31.4%) |
| ・セクハラ抑制効果があった。 | 0件 0% | (0件 0%) |
| ・セクハラの実態把握が難しくなった。 | 0件 0% | (0件 0%) |
| ・その他 | 41件 23.4% | (23件 13.1%) |

6 調査結果に基づき、その後実施した対策の概要について

(1) 生徒に対して ※各学校から記述回答されたものを分類

項目	高等学校	特別支援	全体
セクハラを受けたと記入した生徒本人と面談し、事情を聞いた。	57.6%	25.0%	50.9%
無記名の被害生徒に、相談を受けるよう呼びかけた。	15.1%	0.0%	12.0%
集会やホームルームで、全生徒にセクハラ防止の指導をした。	0.7%	0.0%	0.6%
文書や放送等でセクハラ相談窓口の周知徹底を図った。	3.6%	0.0%	2.9%
セクハラ防止のポスターや文書を作成し、掲示または配布した。	0.0%	0.0%	0.0%
その他	11.5%	19.4%	13.1%

(2) 教職員に対して

- ・全教職員に調査結果を知らせ、セクハラ防止に向け、注意を喚起したり、研修を実施したりしている。
- 【参考】セクハラ実態調査の効果について（各学校で記述回答されたものを集計し、その概要を分類）
- ・全体の97.7%の学校において、セクハラ実態調査は、セクハラ行為に対する抑止力となる、ハラスメントに対する意識が高まる等の面で効果があるとの回答があった。
 - ・セクハラ調査を年間複数回実施した方が良いとの意見が9校からあった。
 - ・風通しの良い職場づくりが、セクハラ防止の上でも効果があるとした意見が多くあった。

7 セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた回答数 *平成28年度からの設問

●セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた人数について

児童・生徒においては、特別支援学校の割合が最も高く0.8%（42件）であった。この他、高等学校は約0.3%（295件）、小学校は0.2%（512件）、中学校は0.1%（144件）であった。なお、各学校でセクハラ相談員等が、追跡調査等を行ったところ、教員から児童・生徒に対するセクハラ以外のハラスメントの具体的な相談について、深刻な内容はなかった。

生徒		県立高等学校			特別支援学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
平成30年度	男子	45,316	133	0.3%	3,556	25	0.7%
	女子	46,225	162	0.4%	1,693	17	1.0%
	合計	91,541	295	0.3%	5,249	42	0.8%

(229)

(31)

児童・生徒		小学校			中学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
平成30年度	男子	127,051	201	0.2%	59,556	46	0.1%
	女子	123,062	311	0.3%	56,711	98	0.2%
	合計	250,113	512	0.2%	116,267	144	0.1%

(430)

(73)

職員		県立高等学校			県立特別支援学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
平成30年度	男性	5,170	50	1.0%	1,471	20	1.4%
	女性	2,471	63	2.5%	2,351	61	2.6%
	合計	7,641	113	1.5%	3,822	81	2.1%

(75)

(62)

()内は平成29年度

セクハラ以外のハラスメントの具体的な事柄の例（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・一部の教員から受験に落ちると脅された。
- ・叱る時にどなる。
- ・授業中に暴言を言われた。
- ・テストの点数をばらされた。
- ・勉強ができないことに対して、勉強に関係のない不快なことを言われた。
- ・資格試験を受けることを伝えたら、「絶対むり」と言われた。
- ・授業中に特定の人を当ててバカにする。
- ・授業の発表で間違えた回答をして教員から冷やかされた。
- ・部活動で自分だけ態度が悪いと決めつけられ、一人だけ残されて何分も説教された。
- ・部活動の顧問から「チームの場を壊す」と言われた。
- ・他人の前で、姉妹の比較をされる。
- ・みんなの前で他の人と比べられて嫌だった。
- ・性格を否定されるようなものの言い方をされ、いい気持ちはしなかった。
- ・怒鳴る、机をたたいて大きな声を出す等の行為をされた。
- ・指をさして「お前」と言われみんなの前で怒られる。
- ・先生が大声で怒鳴ったり、乱暴な言葉を発するのを見聞きするのは不快である。
- ・教員の威圧的な言葉が不快。
- ・思うように動けないのに「早くしなさい」「やりなさい」と大声できつく注意された。
- ・教師の生徒に対する声の大きさや触れ方に対して、生徒が圧力とを感じる場面がある。
- ・出来ないことをやれと言われるのはハラスメントだと思う。

体罰実態調査の結果集計について

1 調査内容

千葉市及び市立高等学校を除く，すべての公立小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，特別支援学校に在籍するすべての児童・生徒及び保護者を対象として，平成30年度中の体罰についてアンケート調査を実施し，新たに体罰の事実を確認した件数及び事案の概要を各県立学校及び各市町村教育委員会から報告する。

2 調査結果

実態調査の結果，生徒が体罰として記入したのは1件であった。

なお，平成29年度調査は0件であった。

(1) アンケートから確認し，体罰の疑いがあると報告された件数

学校種	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
平成30年度	0	0	1	0	1
平成29年度	0	0	0	0	0
平成28年度	0	0	0	0	0

(2) 体罰の場面について（平成28年度及び29年度は該当なし）

体罰の場面	部活動中	授業中	その他	合計
平成30年度	0	1	0	1
平成29年度	0	0	0	0
平成28年度	0	0	0	0

3 体罰の事案での平成30年度中の処分の状況について（平成31年3月31日現在）

(1) 体罰の事案での処分の状況について（事故発生年度と処分年度は一致しない。）

学校種	免職	停職	減給	戒告	訓告等	合計
小学校	0	1	0	0	1	2
中学校	0	0	0	0	0	0
高等学校	0	0	0	0	2	2
特別支援学校	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	0	0	3	4

* 訓告等の処分は，市町村教育委員会が小学校の1件を，県教育委員会が高等学校の2件を行った。

(2) 体罰の態様について

主な体罰の態様は以下のとおりである。

- ・教諭は、担任する特別支援学級の児童5名に対し、一人当たり1回から2回、児童のほおを叩いた。
- ・教諭は、生徒の授業態度が悪いという理由で、生徒の右耳及び右頬の辺りを、左手の平で1回叩いた。

4 平成30年度に千葉県教育委員会の実施した体罰根絶の取組例

県初任者研修会や5年経験者研修会及び中堅教諭等資質向上研修会、体育主任研修会等において体罰根絶について指導した。

- *指導の中で、リーフレット「体罰なんかいない！」(平成26年9月作成)を全参加者に提示し、「体罰根絶宣言」の周知徹底を図った。

問い合わせ

教育振興部教職員課管理室

電話 043-223-4036